

平成26年度

第3回 対策地域内廃棄物処理業務（減容化处理）に係るアドバイザー委員会  
議事要旨

日時：平成26年7月4日 14:00～15:30

場所：飯舘村小宮 仮設焼却施設 建設現場

出席委員（敬称略）

岡山大学環境管理センター センター長

川本 克也

全国都市清掃会議 技術部長

荒井 喜久雄

オブザーバ

福島県相双地方振興局 県民環境部 副部長

清野 弘

議事要旨

I 本日の検討対象施設

1. 飯舘村（小宮）5トン/日（5トン/日×1炉） 仮設焼却炉

II 検討内容

1. 飯舘村（小宮）5トン/日 仮設焼却炉

冒頭、神鋼環境・神戸製鋼共同企業体（以下「JV」）から、施設概要、工事工程、処理フロー、機器配置について説明があった。

（1）安定運転について

委員より、安定運転への方策について質問があった。JVからは、ごみを前処理で150mm以下に破碎すること、ガス化熔融で培った技術を給じんシステムや焼却炉に応用していること、噴射水が完全に蒸発するよう減温塔の容積を十分大きくしていること等の説明があった。委員よりダイオキシン類対策として、運転停止時には十分注意するよう助言があった。

（2）仮設焼却施設（建設中）の視察

安全通路より、施設全体を視察した。視察後、委員からは「安全に対する注意喚起の垂れ幕やポスターが随所に掲示されており、また、安全帯も確実に使用されている等、安全指導が行き届いている印象を受けた。今後も引続き安全に注意して工事を進めること。」との講評があった。

(3) 点検時の粉じん漏えい防止対策について

委員より、コンベヤ等のトラブル時に点検口を開けるときの対応について質問があった。J Vからは集じん装置のダンパ操作により、できるだけ内部を負圧に保つこと、屋外の装置については点検口前に仮設の前室を設置することにより粉じんが外部に漏れないよう対策を講じているとの説明があった。

(4) 運転員への注意喚起について

委員より、点検口を色分けし、通常運転時には開けてはいけないところ、開けるときには注意が必要なところがわかるようにしている施設があるが、本施設でもそのようにしてはどうかとの助言があった。J Vからは、色分けまたは注意表示により対応したいとの回答があった。

(5) 安定燃焼のための採用技術について

委員より、本施設においてガス化熔融で培った技術を採用している箇所について質問があった。J Vからは、①ごみの定量供給が可能な特殊構造を有する給じん機、②砂層温度を低く抑えた緩慢燃焼、③砂層内での燃焼率を下げたガス化燃焼式などの技術を採用しているとの説明があった。

(6) ごみ中の灰分について

委員より、ごみの灰分の割合について質問があった。J Vからは、処理対象物が家屋内から排出される可燃物であることから、物質収支上は一般ごみと同等とし、灰処理系の設備容量としては、その2倍にて設計している旨説明があった。

以上